

血液がんにおける可溶性 IL-2 レセプターの現状

◎宮腰 隆司

宮腰隆史

富士レビオ株式会社 学術サービス部

造血器腫瘍は造血幹細胞が分化・成熟する過程で遺伝子異常が蓄積し、腫瘍性増殖をきたした病態です。多くの疾患が含まれますが、悪性リンパ腫、白血病、骨髄腫が主な患者層になります。特に悪性リンパ腫は造血器腫瘍の半数を占めており、近年高齢者を中心に増加傾向にあります。病型は大きく分けてホジキンリンパ腫と非ホジキンリンパ腫の2つに分類され、発症頻度は欧米とは異なり本邦ではホジキンリンパ腫が少なく、大多数は非ホジキンリンパ腫が占めています。非ホジキンリンパ腫は様々なタイプの病型に分類され、疾患ごとに治療方針も異なるため正確な病型を特定することが重要です。一方、レトロウイルス HTLV-1 の感染が原因で発症するリンパ腫型成人 T 細胞白血病 (ATL/L) も非ホジキンリンパ腫に分類され、早急な診断および治療が必要な急性型 ATL とともに治療が難しい疾患の一つです。

インターロイキン-2 (IL-2) は活性化 T 細胞から分泌され、細胞の分化・増殖に作用するサイトカインです。B 細胞、T 細胞、NK 細胞などの細胞表面の IL-2 受容体 (IL-2R) に結合し、これらの活性化に関与しています。IL-2R は α 鎖 (CD25)、 β 鎖 (CD122)、 γ 鎖 (CD132) のヘテロ 3 量体から成り、リンパ球の活性化とともに、細胞表面上に発現する糖タンパク質です。これらのうち α 鎖の一部が末梢血中に可溶性の分子として遊離されたものが可溶性 IL-2R (sIL-2R) であり、非ホジキンリンパ腫、ATL/L を初めとして種々の疾患で上昇することが明らかになっています。その為、sIL-2R は臨床では腫瘍マーカーとして非ホジキンリンパ腫および ATL/L において診断の補助、病態あるいは治療効果の指標として広く用いられています。

本セミナーでは造血器腫瘍、特に悪性リンパ腫および ATL/L の基礎的内容から sIL-2R 検査の現状、注意すべきピットフォールなどご紹介いたします。